

外為マンスレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/08/01.

「リスク・オン」でも選別の動き

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>		「プチ・リスクオン」の可能性	2 - 3
		予想レンジ: 80.00 ~ 85.00 円	
<u>NZドル/円</u>		外部要因に左右されやすい	4 - 5
		予想レンジ: 61.00 ~ 65.40 円	
<u>ランド/円</u>		追加利下げ観測がくすぶる	6 - 7
		予想レンジ: 8.90 ~ 9.90 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



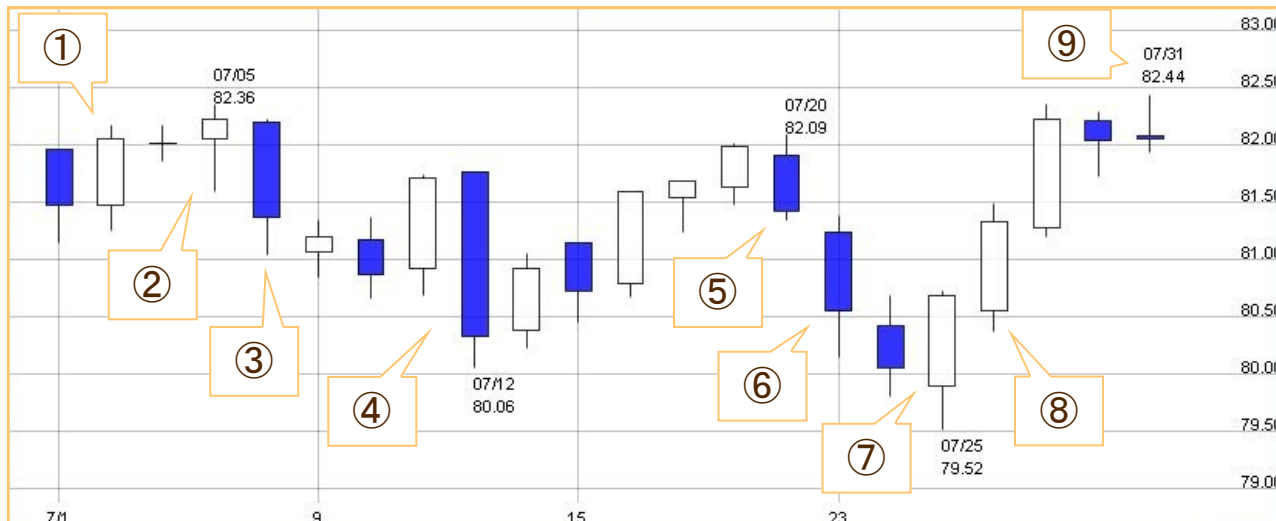
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	81.96円	82.44円	79.52円	82.06円



- ① 3日、豪5月住宅建設許可が前月比+27.3%、前年比+9.3%と予想(+5.0%、-15.2%)を大きく上回り、豪ドル/円は値を上げた。その後、豪準備銀行(RBA)は市場の予想通り、政策金利の据え置きを発表。声明文では利下げスタンスの終了について言及しなかったため、直後の豪ドル/円相場が弱含む場面が見られたものの、アジア株の堅調推移を背景に再び上昇した。
- ② 5日、米6月ADP全国雇用者数が17.6万人増、米新規失業保険申請件数は37.4万件となり、予想(10.0万人増、38.5万件)より強い内容となった。これらを手掛かりに米6月雇用統計への期待が高まり、時間外のNYダウ平均先物が上昇すると、豪ドル/円は82.36円まで上昇した。
- ③ 6日、米6月失業率は事前予想通り8.2%となるも、非農業部門雇用者数が8.0万人増と予想(10.0万人増)を下回った。これを受けて株安が進むと、豪ドル/円はその後81.04円まで値を下げた。
- ④ 12日、豪6月失業率は事前予想通り5.2%に悪化(前月5.1%)。新規雇用者数が予想(0.00万人増)を大きく下回る2.70万人減と伝えられると、豪ドル/円は急落。その後、日銀金融政策決定会合では結果的に緩和が見送られ、日経平均株価が下げ幅を拡大した事や、NY市場でも豪雇用の悪化が蒸し返された事も重なると、豪ドル/円は80.06円まで一段安となった。
- ⑤ 20日、スペインのバレンシア州が債務を返済するために、同国政府に支援を要請すると一部通信社が報じた事を受けて、リスク回避の動きから欧米株が下落。豪ドル/円は81.34円まで弱含んだ。
- ⑥ 23日、スペインの地方財政やギリシャの金融支援といった欧州債務不安の深刻化を背景にリスク回避の動きが強まると、豪ドル/円は81円を割り込んで下げ足を速めた。
- ⑦ 25日、豪第2四半期消費者物価指数が前期比+0.5%、前年比+1.2%と予想(0.6%、+1.3%)を下回ると、豪ドル/円は発表直後に79.52円まで下落。しかし、基調インフレ率が前年比+1.95%と予想(+1.90%)を上回ったことでRBAの8月利下げ観測が後退、豪ドルは買い戻しが優勢になった。ステーブンスRBA総裁が豪州経済について楽観的な見通しを示した事も、豪ドル買いをサポートした。
- ⑧ 26日、ドラギ欧州中銀(ECB)総裁の発言を受け、次回ECB理事会で欧州債務問題に対し踏み込んだ対応策を取るとの期待が高まり、欧米株が上昇すると、豪ドル/円は81.49円まで上昇した。
- ⑨ 31日、豪6月住宅建設許可が前期比-2.5%と、事前予想(-15.0%)ほどには弱くはなかった事や、日経平均株価の堅調推移を背景に、82円台で高止まり。欧州市場に入りユーロ/円の上昇に連れる形で、5月3日以来となる82.44円の高値を記録した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

7月の豪ドル/円相場は79.52円～82.44円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.3%の上昇(豪ドル高・円安)となった。欧州情勢を巡る懸念が和らぐ中、主要国での追加金融緩和観測を背景に、豪ドルは対ユーロで過去最高値更新が続いたのを始め、対円・対ドルでも堅調に推移した。

今月も豪ドル/円は欧州債務問題の行方と、主要国の追加金融緩和観測が手掛かり材料となりそうだ。足下では欧州情勢に対する過度の悲観論が後退する中、米欧での追加金融緩和観測が高まるようならば、先月に続いて主要国株価の上昇を背景に、「プチ・リスクオン」と言うべき局面が続く可能性がある。その場合、政策金利格差から高金利通貨が買われる展開が予想されるが、主要国の中で比較的高金利であり、かつ、目先の追加利下げ観測が後退している豪ドルが選好されやすい。豪ドル/円は79円台前半～82円台半ばのレンジから、82円台半ば～84円台後半のレンジへと移行する可能性がある。ただ、RBAの利下げ打ち止め観測が浮上していない事から、7日のRBA理事会や10日のRBA四半期金融政策報告、21日のRBA議事録に注目しておきたい。(川畑)

(予想レンジ:80.00～85.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

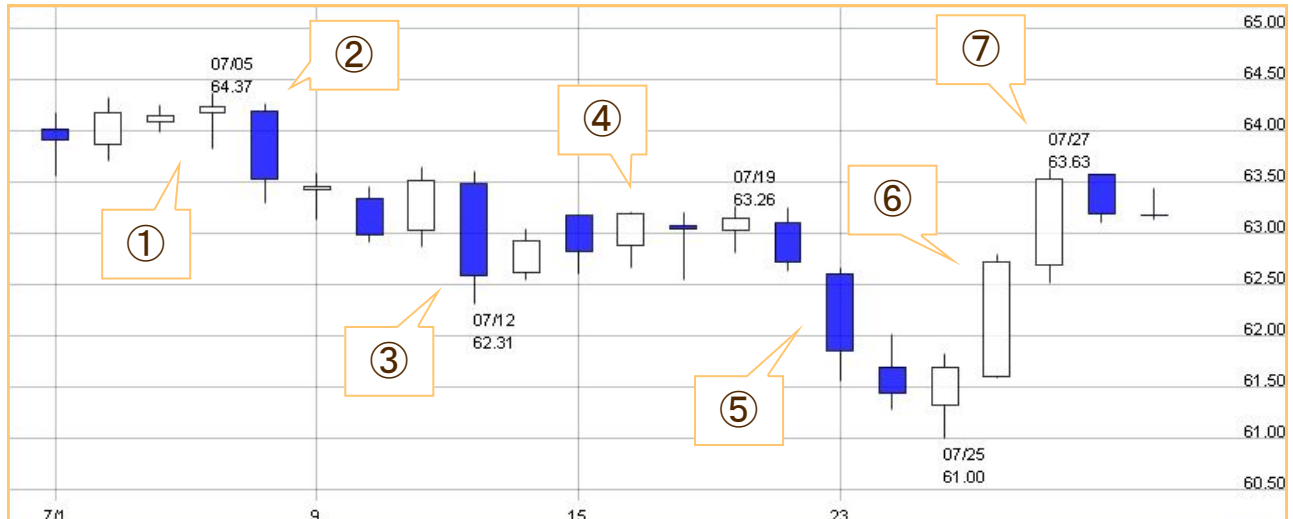
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(水)	7月米ADP全国雇用者数	8/10(金)	RBA四半期金融政策報告
	7月米ISM製造業景況指数		7月中国貿易収支
	米FOMC政策金利発表	8/13(月)	第2四半期日GDP・一次速報
8/2(木)	6月豪貿易収支	8/14(火)	7月米小売売上高
	6月豪小売売上高	8/15(水)	7月米消費者物価指数
	欧州中銀金融政策発表		8月米ニューヨーク連銀製造業景況指数
8/3(金)	7月米雇用統計	8/17(金)	8月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	7月米ISM非製造業景況指数	8/21(火)	RBA議事録
8/7(火)	RBAキャシュターゲット		米FOMC議事録(7/31・8/1日分)
8/8(水)	6月日貿易収支	8/24(金)	スティーブンスRBA総裁議会証言
8/9(木)	7月豪雇用統計	8/30(木)	第2四半期豪民間設備投資
	7月中国消費者物価指数		7月豪住宅建設許可件数
	日銀金融政策決定会合(8日～発表)	8/31(金)	8月米シカゴ購買部協会景況指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	64.02円	64.37円	61.00円	63.17円



①

5日、米6月ADP全国雇用者数が17.6万人増、米新規失業保険申請件数は37.4万件となり、予想(10.0万人増、38.5万件)より強い内容となった。これらを手掛かりに米6月雇用統計への期待が高まり、時間外のNYダウ平均先物が上昇。更に、欧州中銀(ECB)の利下げを背景に対ユーロでNZドル買いが優勢となると、NZドル/円は64.35円まで上昇した。

②

6日、米6月失業率は事前予想通り8.2%となったが、非農業部門雇用者数が8.0万人増と予想(10.0万人増)を下回った。これを受けて株安が進むと、NZドル/円はその後63.29円まで値を下げた。

③

12日、日銀金融政策決定会合後では結果的に緩和が見送られ、日経平均株価が下げ幅を拡大。その後の欧州株の下げも重なると、NZドル/円は62.31円まで一段安となった。

④

17日、NZ第2四半期消費者物価指数が前年比+1.0%と予想(+1.1%)を下回り、NZ準備銀行(RBNZ)のインフレ目標(年+1~3%)の下限に達した。また、前期比は+0.3%と予想(+1.5%)を大きく下回った。これを受け、NZドル/円は約20銭急落したが、売り一巡後は発表前の水準に値を戻した。

⑤

23日、前週末にスペイン紙がバレンシア州に続き、6つの州が中央政府への支援要請を検討している、と報じたことや、独誌が「国際通貨基金(IMF)はギリシャへの融資実行を停止する」「そのため、同国は9月に債務不履行に陥る可能性が高まる」などと報じたことなどを背景に、リスク回避の動きが強まると、NZドル/円は62円を割り込んで下げ足を速めた。

⑥

26日早朝、RBNZは政策金利の2.50%据え置きを発表。その後の声明文でも、追加利下げについての言及はなく、NZ経済の見通しも前回6月の金融政策発表時点と変わっていない事が伝えられた為、市場の反応は限定的となった。その後、ドラギ欧州中銀(ECB)総裁の「ECBは政府の借り入れコストが不当に上昇している事への対処を含め、ユーロ圏を崩壊から守るためにできる事を、責務の範囲内で何でもする用意がある」との発言を受け、次回ECB理事会で欧州債務問題に対し踏み込んだ対応策を取るとの期待が高まり、欧米株が上昇すると、NZドル/円は62.79円まで値を上げた。

⑦

27日、前日のドラギECB総裁の発言を手掛かりに、ECBが追加金融緩和策を打ち出すとの期待から欧米株が大きく上昇すると、NZドル/円は63.63円まで上値を伸ばした。

NZD / JPY

今月のポイント

7月のNZドル/円相場は61.00円～64.37円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.3%の下落(NZドル安・円高)となった。欧州債務問題を受けた主要国の株価に左右される展開が目立ち、方向感が定まらなかった。

今月、NZでは金融政策発表といった目玉となる経済イベントが予定されておらず、「市場のリスク許容度」が数少ないNZドル/円相場の手掛かり材料となりそう。足下の相場を見ると、欧州債務問題に対する過度の懸念が後退している事や、米欧での追加金融緩和観測を背景に株価が上昇しており、やや「リスク・オン」の流れとなっている。先月の流れを引き継いで株高となるようならば、NZドル/円は底堅い推移が予想される。

ただ、先月の値動きを見ると、NZドル/円は豪ドル/円ほどには株高の恩恵を受けておらず、その事は先月の豪ドル/NZドル相場で豪ドル高の流れが続いた事からも明らかである。「リスク・オン」の局面では金利面・市場規模から見ても豪ドルのほうに市場の関心が集まりやすく、今月もNZドル/円の上昇率は豪ドル/円を下回るだろう。(川畑)

(予想レンジ: 61.00～65.40円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

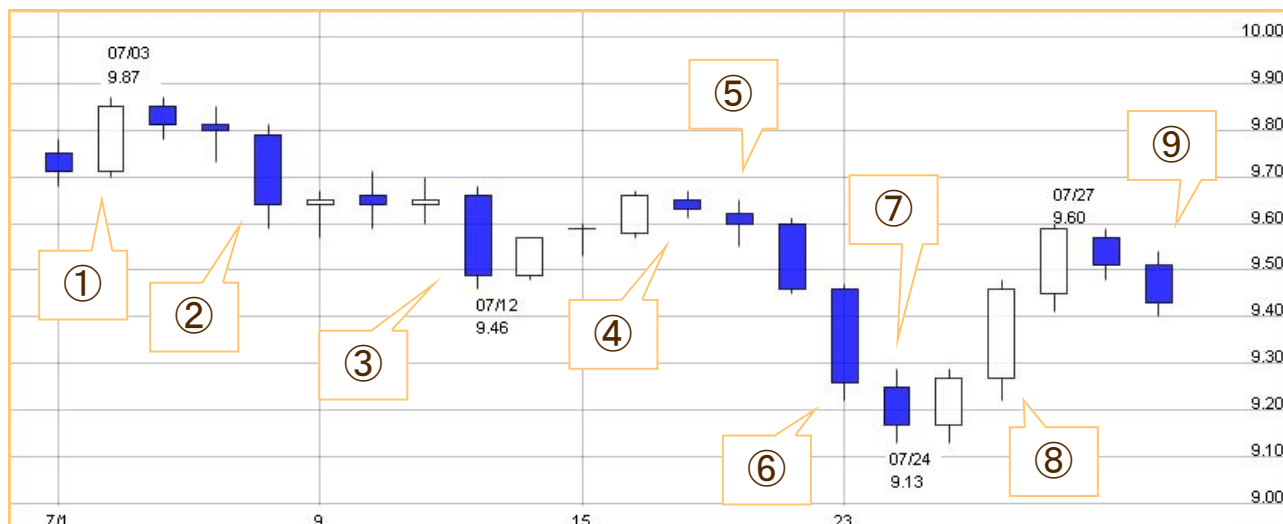
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(水)	7月米ADP全国雇用者数	8/9(木)	日銀金融政策決定会合(8日～発表)
	7月米ISM製造業景況指数	8/10(金)	7月中国貿易収支
	米FOMC政策金利発表	8/13(月)	第2四半期日GDP・一次速報
8/2(木)	欧州中銀金融政策発表	8/14(火)	第2四半期NZ小売売上高指数
8/3(金)	7月米雇用統計		7月米小売売上高
	7月米ISM非製造業景況指数	8/15(水)	7月米消費者物価指数
8/7(火)	RBAキャシュターゲット		8月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
8/8(水)	7月NZ住宅建設許可	8/17(金)	第2四半期NZ生産者物価
	6日日貿易収支		8月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
8/9(木)	第2四半期NZ失業率	8/21(火)	第3四半期RBNZインフレ期待
	7月中国消費者物価指数	8/24(金)	7月NZ貿易収支

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.75円	9.87円	9.13円	9.43円



- ① 3日、23時に発表された米5月製造業受注が前月比+0.7%と予想(+0.1%)を上回った事を好感して、NYダウ平均が上昇。欧州中銀(ECB)や英中銀(BOE)による追加金融緩和観測を背景とした欧州株高も加わると、ランド/円は9.87円まで上昇した。
- ② 6日、米6月失業率は事前予想通り8.2%となったが、非農業部門雇用者数が8.0万人増と予想(10.0万人増)を下回った。これを受けて時間外のNYダウ平均先物が下落すると、ランド/円は9.59円まで値を下げた。
- ③ 12日、日銀金融政策決定会合後では結果的に緩和が見送られ、日経平均株価が下げ幅を拡大すると、ランド/円は軟調に推移。その後も欧米株や原油相場の下落を背景に、9.46円まで続落した。
- ④ 18日、南ア6月消費者物価指数が前年比+5.5%と予想(+5.7%)を下回り、2カ月連続で南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標(年+3~6%)のレンジ内に収まった。一部ではこれを理由に19日のSARB政策金利発表での利下げ観測が浮上したが、ランド/円相場の反応は鈍かった。その後南ア5月実質小売売上高が前年比+6.4%と予想(+5.2%)を上回ったが、市場の反応は薄かった。
- ⑤ 19日、SARBは0.50%の利下げを発表。その際に発表された声明文でも、欧州債務問題の長期化の影響による南ア経済の下振れリスクについて言及した他、経済成長率やインフレ見通しを共に下方修正した。予想外の利下げを受け、ランド/円は9.55円まで急落した。
- ⑥ 23日、スペインの地方財政やギリシャの金融支援といった欧州債務不安の深刻化を背景にリスク回避の動きが強まると、ランド/円は大きく値を下げた。
- ⑦ 24日、スペイン10年債利回りがユーロ導入来の7.64%に達した事や、欧州連合(EU)筋が「ギリシャは国際通貨基金(IMF)と合意した債務削減目標を達成できない見通しであり、追加の債務再編が必要」との見解を示した事を嫌気してNYダウ平均が下落すると、ランド/円は6月4日以来となる9.13円の安値を記録した。
- ⑧ 26日、ドラギ欧州中銀(ECB)総裁の発言を受け、次回ECB理事会で欧州債務問題に対し踏み込んだ対応策を取るとの期待が高まり、欧米株が上昇すると、ランド/円は9.48円まで反発した。
- ⑨ 31日、南ア第2四半期失業率が24.9%と、前回(25.2%)よりも強い内容となった。だが、市場の反応は薄かった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

7月のランド/円相場は9.13円～9.87円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.3%の下落(ランド安・円高)となった。先月の上昇に対する反動や、予想外のSARBの利下げ等を背景に弱含んだが、足下では米欧の追加金融緩和観測を背景とした株高に伴い、9円台前半では底堅く推移している。

今月もランド/円相場は、米欧の金融政策を受けた株価動向が手掛かり材料となりそうだ。緩和観測が高まって株高が進む場面では、ランド/円に上昇圧力がかかりやすい。ただ、先月SARBが予想外の利下げを行い、しかも声明文を見ると、追加利下げ打ち止めとの感触は得られない内容であった。追加利下げの思惑が残る以上、上昇パフォーマンスは目先の追加利下げ観測が後退している豪ドルに劣るだろう。

一方、南ア国内では、22日に7月消費者物価指数の発表が予定されている。前年比は2カ月連続でSARBのインフレ目標(年+3～6)の上限を下回っており、今回もインフレの落ち着きを示す結果となれば、欧州情勢が一段と悪化する場合にはSARBの追加利下げ観測が浮上し、ランド/円の上値を重くしそうだ。その他、31日の第2四半期国内総生産(GDP)にも注目したい。(川畑)

(予想レンジ:8.90～9.90円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(水)	7月米ADP全国雇用者数	8/13(月)	第2四半期日GDP・一次速報
	7月米ISM製造業景況指数	8/14(火)	7月米小売売上高
	米FOMC政策金利発表	8/15(水)	7月米消費者物価指数
8/2(木)	欧州中銀金融政策発表		8月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
8/3(金)	7月米雇用統計	8/17(金)	8月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	7月米ISM非製造業景況指数	8/21(火)	米FOMC議事録(7/31・8/1日分)
8/8(水)	6月日貿易収支	8/22(水)	7月南ア消費者物価指数
8/9(木)	7月中国消費者物価指数	27-31	7月南ア生産者物価指数
	日銀金融政策決定会合(8日～発表)	8/31(金)	第2四半期南アGDP
8/10(金)	7月中国貿易収支		7月南ア貿易収支
10-15	6月南ア小売売上高		8月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。